■製品の特長

キャリバー6M26は、時刻のほかにアラーム・タイマー・カレンダー（月・日）・ストップウォッチの機能を備えたアナログクォーツ時計です。

●ストップウオッチ機能
1/10秒単位で計測ができ、スプリット計測も可能な60分計です。

●アラーム機能
12時間制で1分単位に合わせることができ、アラームのON（鳴り）・OFF（鳴り止め）を選択できます。

●タイマー機能
1分単位に合わせることができる60分計です。
針は左まわり（反時計方向）する減算タイマーです。

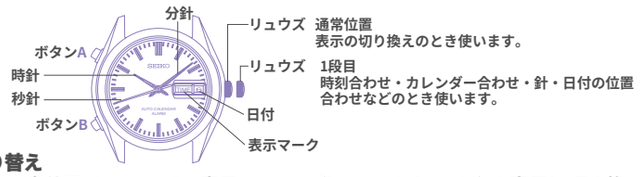
●カレンダー機能
うるう年の2月を除き修正がいらないオートカレンダーです。

■製品仕様

1. 水晶振動数　32,768Hz（Hz=1秒間の振動数）
2. 携帯精度　常温（5˚C～35˚C）において月差±15以内
3. 作動温度範囲　－10˚C～60˚C
4. 駆動方式　ステップモーター　4個
5. 表示内容
   - TIME　：時・分・秒・日
   - ALARM ON　：時・分・秒・日
   - ALARM SET　：時・分・日（12時間制）
   - TIMER　：分・秒・日（60分計）
   - DATE　：月・日（うるう年の2月を除くオートカレンダー）
   - CHRONO　：分・秒・1/10秒・日（60分計）
6. 使用電池　小型酸化銀電池　SB-BP 1個
7. 電池寿命切れ予告機能付
8. 電子回路　C-MOS-LSI 1個

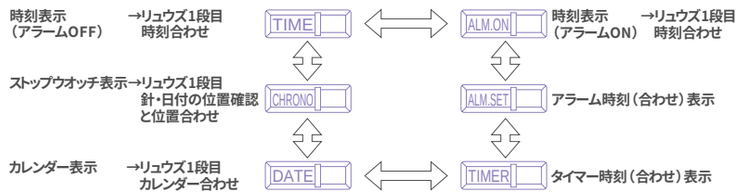
※上記の製品仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

■各部の名称とはたらき



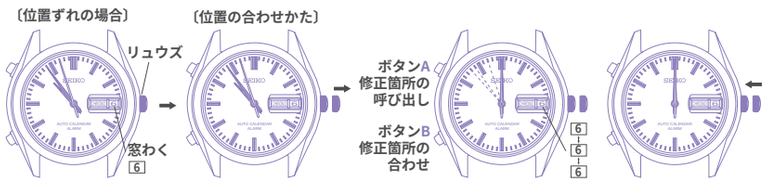
●表示の切り替え
リュウズを通常位置でまわして、表示マークを動かすことにより次の表示に切り換わります。

●リュウズは両方向にまわすことができます。



■針・日付の位置確認と位置の合わせかた

●リュウズをまわして CHRONO 表示にしてください。
このとき、秒・分・時針が0位置（12時位置）へもどらなかったり、日付が窓わくよりずれているときは、次の手順にそって位置合わせをしてください。
※ストップウオッチが作動しているときは、ボタンAを押しストップさせて、次にボタンBを押してストップウオッチをリセットしてください。



1 リュウズを引きます。

2 ボタンAを押すごとに修正する箇所が換わります。
秒→分→時→日
※このとき針は左右に、日は1日送りもとの日へもどる動きによって修正箇所をお知らせします。

3 修正する箇所を呼び出した後、ボタンBを押し針は0位置へ、日付は窓枠の中央に合わせます。
※ボタンBを押すごとに、針と日は少しずつ送りますが秒針の場合は1秒ずつ送ります。
※日は上下の動きをします。
※早送り修正するときは、ボタンBを約2秒間押し続けますと押している間、早送りします。

4 リュウズをもとの位置まで確実に押し込みます。

■時刻の合わせかた

●時刻を合わせる前に、針が0位置（12時位置）へまた、日付が窓わくの中央に合っているかご確認ください。詳しくは、“針・日付の位置確認と位置の合わせかた”の項をご参照ください。

●リュウズをまわして TIME または ALM. ON 表示にしてください。

1 リュウズを引きます。このとき、秒針は12時の位置へもどります。

2 ボタンAを押すごとに1分ずつ送ります。
※分針の動きに合わせて時針が連動します。

3 ボタンBを押すごとに1時間ずつ送ります。
※時針のみ動きます。
※午前／午後にご注意ください。

〔午前の場合〕
時針が12時を通過するとき、日が次の日に切り換わった後再びもとの日にもどるときは午後から午前の時間帯に移ったことを表します。

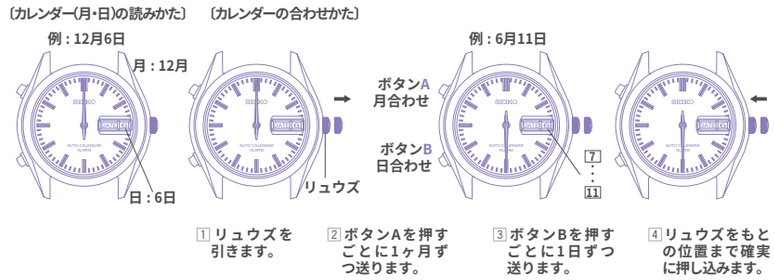
〔午後の場合〕
時針が12時を通過するとき、日が動かないときは午前から午後の時間帯に移ったことを表します。

4 時報と同時にリュウズをもとの位置まで確実に押し込みます。
※時刻合わせは、電話の時報サービスTEL.117が便利です。

※早送り修正するときは、ボタンAまたはBを約2秒間以上押し続けますと押している間、早送りします。
※12時を通過するとき午前の場合（日が動いている間）、針は一時静止します。
※この表示では、日付を合わせることはできません。DATE 表示で月・日を合わせます。

■カレンダーの合わせかた

●リュウズをまわして DATE 表示にしてください。
※月は文字板の時目盛を用いて針によって表します。



1 リュウズを引きます。

2 ボタンAを押すごとに1ヶ月ずつ送ります。

3 ボタンBを押すごとに1日ずつ送ります。

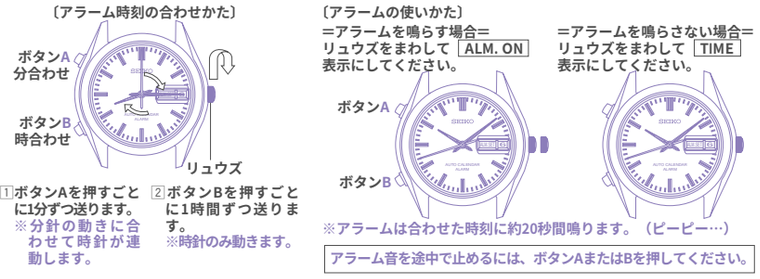
4 リュウズをもとの位置まで確実に押し込みます。

※月・日を早送り修正するときは、ボタンAまたはBを約2秒間以上押し続けますと押している間、早送りします。
※うるう年の2月を除き修正がいらない、オートカレンダーです。
存在しない日（例：2月30日）を設定し、リュウズを押し込んだときは翌日の1日（例：3月1日）となります。

■アラームの使いかた（12時間制）

●アラームは1日2回鳴る12時間制で、1分単位に合わせることができます。

●リュウズをまわして ALM. SET 表示にしてください。
※アラームの鳴る時刻を表示し、秒針は12時位置へもどり停止します。



1 ボタンAを押すごとに1分ずつ送ります。
※分針の動きに合わせて時針が連動します。

2 ボタンBを押すごとに1時間ずつ送ります。
※時針のみ動きます。

※アラームは合わせた時刻に約20秒間鳴ります。（ピーピー…）

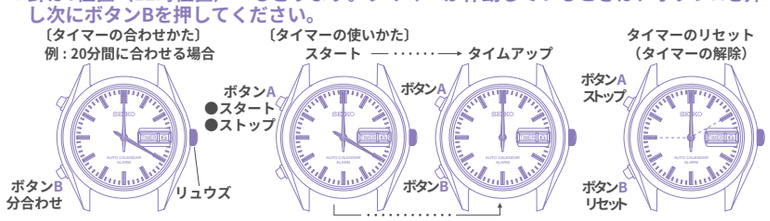
アラーム音を途中で止めるには、ボタンAまたはBを押してください。

※早送り修正をするときは、ボタンAまたはBを約2秒間押し続けますと押している間、早送りします。
※リュウズを引いた状態でも合わせることができます。

■タイマーの使いかた（60分計）

●1分単位に最大60分まで合わせることができ、針は左まわり（反時計方向）する減算タイマーです。

●リュウズをまわして TIMER 表示にしてください。
※針は0位置（12時位置）へもどります。タイマーが作動しているときは、ボタンAを押し次にボタンBを押してください。



□ボタンBを押すごとに1分ずつ送ります。このとき、時針は使いませんので動きません。
※早送り修正するときは、ボタンBを約2秒間押し続けますと押している間、早送りします。

60分間のタイマー合わせは、針を0位置（12時位置）にします。

1 ボタンAを押すとスタートします。（ピッと報知）
※ボタンAを押すごとにストップと再スタートをくり返します。（ピッと報知）

2 タイムアップのときアラーム音は約5秒間鳴ります。（ピッピッピッ…）
※タイムアップ音を途中で止めるときは、ボタンAまたはBを押します。

1 ボタンAを押しタイマーをストップさせます。（ピッと報知）

2 ボタンBを押すと針は0位置へもどりリセットされます。（ピッと報知）

＝ご注意＝
※タイマー作動中、他の表示へ切り換えてもタイマーは作動していますが、ストップしているときは自動的にリセットされます。

■ストップウオッチの使いかた（60分計）

●1/10秒単位で計測ができ、スプリット計測も可能な60分計です。

●リュウズをまわして CHRONO 表示にしてください。
※針は0位置（12時位置）へもどります。ストップウオッチが作動しているときは、ボタンAを押しストップさせて、次にボタンBを押してください。
※ストップウオッチでは、針の名称（はたらき）が他の表示と異なりますのでご注意ください。

※1/10秒針は分目盛の0～9分の間を往復します。

※1/10秒針は0位置で静止し、秒・分針のみ動きます。
※ストップまたはスプリット計測をしたとき1/10秒針は計測時間を示します。
※再スタートまたはスプリット解除したとき1/10秒針は再び0位置へもどり静止します。

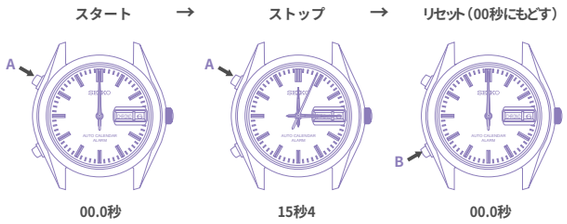
※1/10秒単位の読みかたは、1/10秒針の停止した分目盛の数値を読んでください。

＝ご注意＝
※計測中、他の表示へ切り換えてもストップウオッチは作動していますが、スプリット状態ではスプリット解除となります。
※ストップウオッチとしてのボタン機能が一時停止するときがあります。
●タイマーのタイムアップ音が鳴っている間。
●スプリット解除後、通常の運針状態へもどる間。

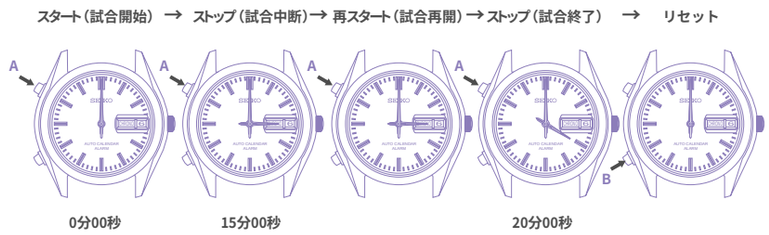
■ストップウオッチの使いかた（つづき）

※ボタンを押すごとに確認音が“ピッ”と報知します。

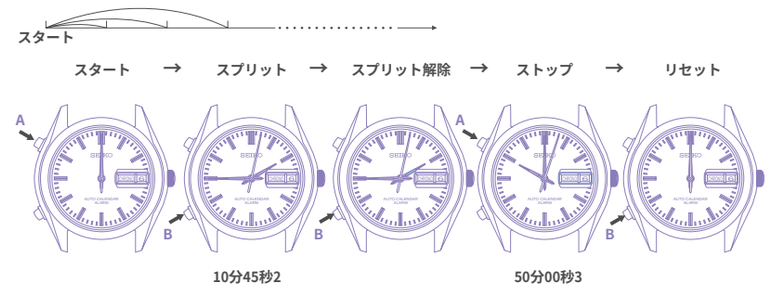
□普通の使いかた（ボタンの押す順序：A→A→B）



□時間計測を積算で行う場合（例：バスケットボール）（ボタンの押す順序：A→A→A…→A→B）
※ボタンAを押すごとに、ストップと再スタートをくり返すことができます。



□途中経過時間（スプリット）を測る場合（ボタンの押す順序：A→B→B…→A→B）
※ボタンBを押すごとに、スプリットとスプリット解除をくり返すことができます。
スプリット：スタートからある区間までの途中経過時間のことです。



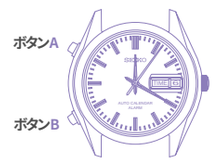
■デモンストレーション

〔サウンドデモンストレーション〕
アラーム音の試し聴き

1 りゅうずをまわして ALM. ON 表示にしてください。

2 ボタンAとBを同時に押します。押し続けている間アラームが鳴り続けます。（ピーピー…）

〔デモンストレーション運針〕



1 りゅうずをまわして TIME 表示にしてください。

2 ボタンAとBを同時に約2秒間押し続けますと針が左右に動きます。

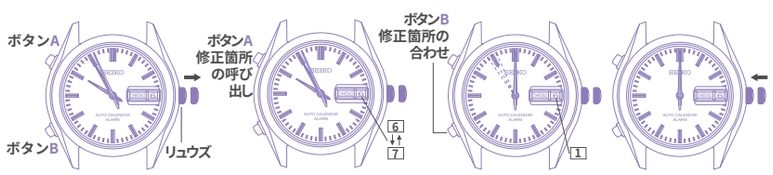
3 ボタンAまたはBを押し針の動きを止めます。
このとき、正確な時刻へもどります。

※約2分後には自動的に時刻へもどります。

■電池交換後のお願い

●電池を交換した後は、時計内のICメモリー情報と針・日付の表示位置が一致しなくなりますので、次の手順にそって合わせてください。

●リュウズをまわして CHRONO 表示にしてください。
※ストップウオッチが作動しているときは、ボタンAを押しストップさせて、次にボタンBを押してストップウオッチをリセットしてください。



1 リュウズを引きます。

2 ボタンAとBを同時に約2秒間押し続けます。
ボタンを離すと“ピー”と報知し針は左右に動きます。

3 ボタンAまたはBを押し針の動きを止めます。

4 ボタンAを押すごとに修正する箇所が換わります。
秒→分→時→日
※このとき針は左右に、日は1日送りもとの日へもどる動きによって修正箇所をお知らせします。

5 修正する箇所を呼び出した後、ボタンBを押し針は0位置（12時位置）へ日付は必ず1に合わせてください。
※ボタンBを押すごとに、針と日は少しずつ送りますが、秒針の場合は1秒ずつ送ります。
※早送り修正するときは、ボタンBを約2秒間押し続けますと押している間早送りします。

6 リュウズをもとの位置まで確実に押し込みます。

7 リュウズをまわし TIME または ALM. ON 表示で、時刻合わせをします。

8 リュウズをまわし DATE 表示で月・日を合わせます。

※詳しくは、“時刻の合わせかた”“カレンダーの合わせかた”をご参照ください。